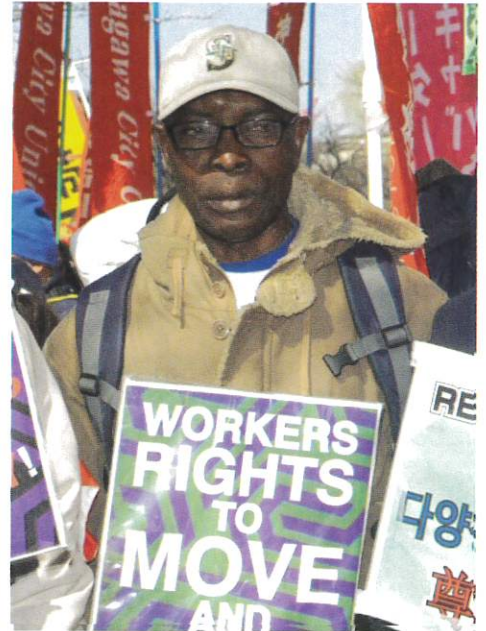


HIBIYA 96th MAYDAY

働く者の団結で生活と権利、平和と民主主義を守ろう



日程 5月1日(木) 開場 9:00 開会 9:40 デモ出発 11:25

会場 日比谷野外音楽堂

JR有楽町駅、都営三田線内幸町、地下鉄千代田線
日比谷駅、丸の内線霞が関駅、日比谷公園内

主催 第96回日比谷メーデー実行委員会

東京都港区新橋4-21-7 つるやカウズビル4階 TEL:03(5403)660 FAX:03(5403)663

第96回日比谷メーデーへの呼びかけ

第96回日比谷メーデー代表呼びかけ人（五十音順）

鎌田 博一（国 労 東 京 委 員 長） 小泉 尚之（東 京 全 労 協 議 長）
関口 広行（25 けんり春闘全国実行委員会事務局長） 中島由美子（中小民間労組懇談会代表）
藤村 妙子（全 労 協 女 性 委 員 会） 渡邊 洋（全 労 協 議 長）

25 春闘を闘う、すべての働く仲間のみなさん！

ロシア軍のウクライナ軍事侵攻は三年が経過し、パレスチナ自治区ガザ地区ではイスラエルによるジェノサイドによって多くの市民が犠牲になっています。私たちはこれらの武力侵攻を厳しく糾弾すると共に、対話による平和的外交を訴え、ウクライナとパレスチナでの即時停戦を実現させなければなりません。

昨年1月、能登半島地震が発災しましたが、現地は未だに復旧の途上にあります。東日本大震災から14年が経過しましたが、原発事故の収束は遅々として進まず、多くの住民が困難な避難生活を余儀なくされています。政府・東京電力は、原発汚染水に関する地元との約束を反故にして海洋投棄を強行しました。福島県漁協や住民は政府・東電の対応に怒りの声を上げています。

石破首相は、「脱炭素」を口実に、原発の新增設、稼働期間の延長、原子力発電の将来に渡った持続的活用など、原子力政策の推進を明らかにしています。私たちは、原発事故の教訓を生かさず、再稼働を強行する政府を許さず、東電や政府の責任を迫及し、再生可能なエネルギー政策への転換を実現、被災した現地の人々と連帯を深めていかなければなりません。

感染症は収束しましたが、私たち労働者や市民の生活は不安定な状況が今も続いており、貧困層が女性、外国人を中心に多く生み出されています。大手企業は政府の介入による「賃上げ」を明らかにしていますが、大手労働組合の要求は経営側の手の内に収まる範囲となっています。こうした中、労働者の実質賃金は下がり続け、中小零細の賃上げに深刻な影響を及ぼしています。

25 春闘を労働者総体の闘いとして、生活と権利を守り、安心した生活ができる社会を実現するため、春闘からメーデーに繋げていくことが大切です。長時間労働が常態化し、低賃金で人件費は抑制され、労働する権利が奪い取られ、「格差と貧困」の更なる拡大が労働者への犠牲を強いています。こうした動きに反対の声を上げて、政府—資本と対峙していかなければなりません。

私たちは、春闘を「総労働と総資本の闘いの場」として再生し、賃上げはもとより、労働者の権利破壊、企業の不法・脱法行為、貧困・格差の拡大と対決し、非正規労働者の均等待遇・権利拡大をめざして、ストライキを背景に大衆闘争で闘っていかなければなりません。石破政権による企業利益優先の政策や、差別・排外主義を煽る勢力の拡大を許さず、民主主義の破壊や民主化運動の圧殺などと闘う世界中の人々とともに国際連帯で闘っていきます。また、未組織・非正規・女性・外国人労働者の低賃金と労働条件の改善、ジェンダー平等、労働者の生活と権利を守る闘いを進めていきます。同時に、様々な行動に結集する人々と連帯し、震災復興、脱原発、軍事費増額に反対し、あらゆる戦争反対、辺野古新基地建設阻止、戦争法・共謀罪廃止、憲法改悪反対、平和と民主主義擁護を掲げ、労働組合への弾圧を跳ねのけ、すべての労働者・市民、全世界の人々と手をつなぎともに闘っていきましょう。

私たちは、メーデーを『闘いの広場』として位置付け、統一メーデーの実現を求める立場を確認し、すべての働く仲間と平和と民主主義、一人ひとりの人権が尊重される社会をめざし、5月1日に開催する第96回日比谷メーデーへの参加を呼びかけます。

2025年 3月24日